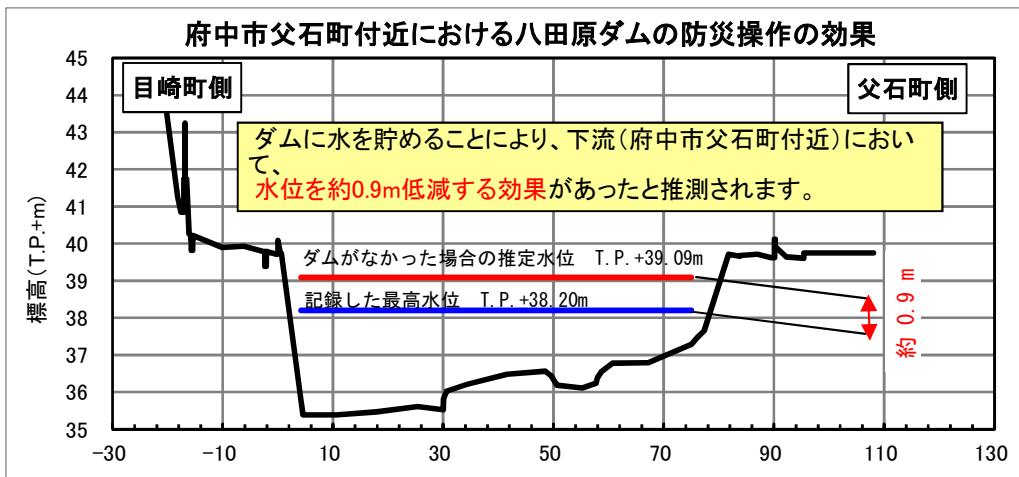
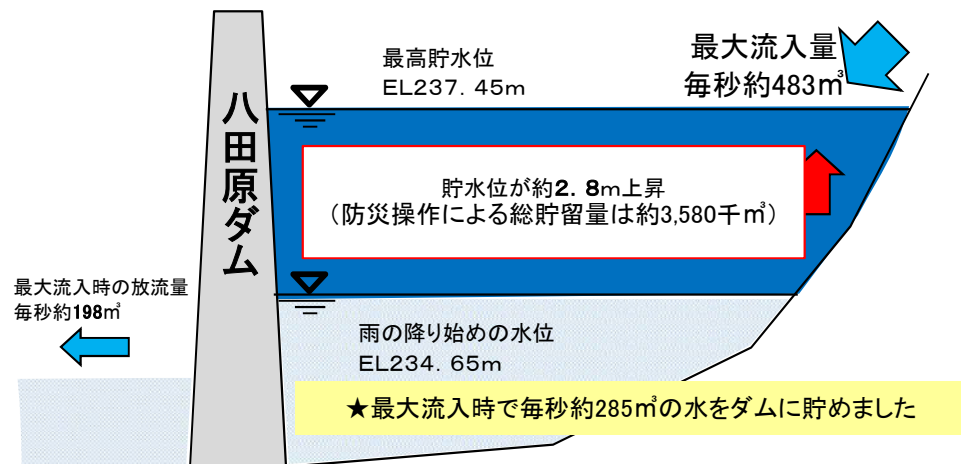
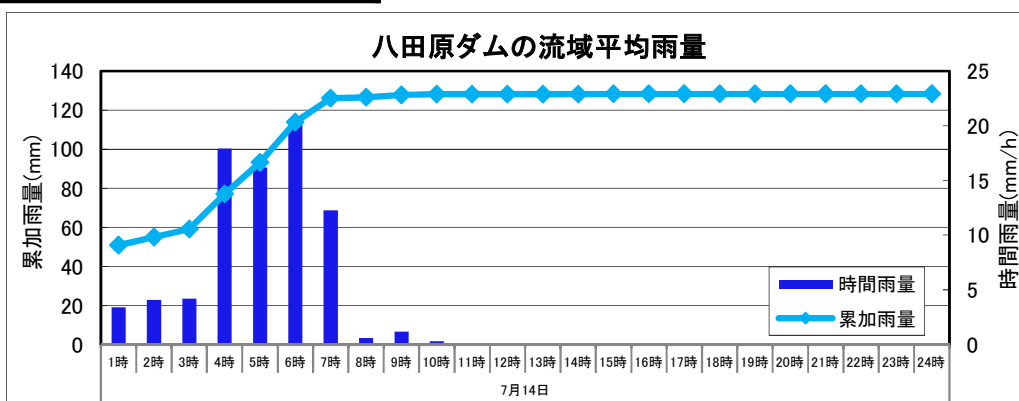
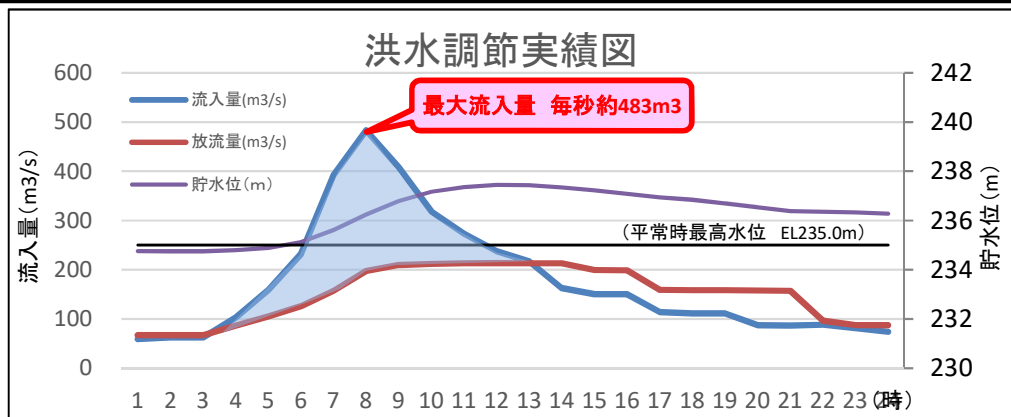


八田原ダムにおける防災操作による治水効果(令和2年7月14日 梅雨前線)

八田原ダム流域では、令和2年7月14日の明方から朝にかけて梅雨前線の影響により強い雨が降り、降り始めからの流域平均総雨量は128.3mmを記録しました。
 八田原ダムでは、ダムへ入ってきた水の量が最大で毎秒約483m³に達しました。
 これを受けて、八田原ダムにおいては防災操作※をおこない、このうち、最大で毎秒約285m³の水をダムに貯め込みました。
 この結果、府中市父石町付近で水位を約0.9m低減する効果があったと推測されます。

※『防災操作』とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

八田原ダム位置図



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。